

令和7年度第1回広島県青少年健全育成審議会議事録

1 開催日時及び場所

令和7年9月2日（火）10時00分～12時10分

広島県庁南館1階101会議室（広島市中区基町10-52）

2 委員の現在数及び審議会に出席した委員の数

委員の現在数 10人

出席委員数 9人

3 出席した委員の氏名

秋野成人、板倉妙子、岩永誠、内垣戸貴之、岡原秀樹、戸川喜史、
新延浩二、船本夕里亜、渡辺真由

4 議題

広島県青少年健全育成条例に基づく青少年に有益な映画の推奨について
映画「はだしのゲンはまだ怒っている」

5 担当部署

広島県環境県民局県民活動課 TEL（082）513-2740（ダイヤルイン）

6 会議の内容

(1) 開会

委員総数10名のうち9名が出席し、広島県青少年健全育成審議会規則第3条第3項により、定足数を満たしていることを事務局が確認した。

(2) 議事

広島県青少年健全育成条例に基づく青少年に有益な映画の推奨について

ア 利害関係者の有無の確認

本日の議題に関して利害関係のある委員の審議参加について、本日の出席者に利害関係者に該当する委員がいないことを確認した。

イ 推奨基準の確認等

事務局から、資料1により作品の概要、資料2により推奨基準について説明した。

ウ 映画の鑑賞

審議対象作品「はだしのゲンはまだ怒っている」を鑑賞した。

エ 審議

（会長）

ただいま観賞した映画を青少年に有益な映画として推奨することについて、皆様の意見・感想を聞かせていただきたい。

（委員）

広島で生まれ育った人とは戦争に対する考え方が違うのかなと思ったことがある。以前、私が母親クラブの活動をしている時に、伝承者の話を聞くプログラムを実施してはどうかと関係者に提案したことがあるが、その時、実際に戦争を体験した人と伝承者は違うと言われてしまい、引いてしまったことがある。

映画を鑑賞し、その当時とは随分様子が変わっているなと感じた。

以前子供達に、はだしのゲンを読んだことがあるかと聞いてみたところ、あまり面白くなさそうだからという理由で読んだことがないと言われたことがある。今の子供達にとって、はだしのゲンが怖い作品であるため観てもらえないのかと思い、少し悲しかった。

戦後 80 年となる今年、伝えていかなければならないことはたくさんあると思う。

映画の中には、日本はただ被害を受けたということだけではなく、加害国でもあるという事実など、子供達に伝えていくべき内容が多く含まれており、良い映画であると感じた。

(委員)

最近、核兵器の怖さが忘れ去られてきているように感じる。先日、テレビであるインタビューの様子を見ていた際に、8月15日や12月8日が何の日であるか答えられない学生がいた。このように戦争の記憶が風化していくことは、同じ過ちを再び繰り返す危険性を高めることにつながると思う。

今も世界中で同じような過ちが繰り返されている中で犠牲者のほとんどが一般市民であるという状況を鑑みると、戦争は全く他人事ではなく、いつ核兵器が空から降ってきてもおかしくない状況であると言える。

重要なのは、これをどう抑止していくかという観点であり、今後しっかりと継承していく必要があると思う。

この映画は、若い世代のみならず、多くの世代に観ていただきたい。子供達に観てもらおうという観点で考えると、上映映画館が限定される可能性もあると思うが、本来は教育現場やテレビ放送などの映画館以外の場所でも観てもらう必要がある映画だと思う。

歴史解釈の問題などもあるが、当時の人はこう感じていたという事実を伝えていくことは重要であると思う。

ただ、上映時間の長さに子供達が耐えられるかという点だけ少し懸念している。

子供達にも多くの情報を伝えていかなければならないため、いろいろな場所で観ることができるよう体制を整えてほしい。

(委員)

私が子供の時、はだしのゲンを読んだことは覚えているが、全部読んだ記憶はない。最初から最後まで通して読むと別の価値があったり、読み手によって異なる解釈があることから、映画として評価していることについては少し読み切れない部分もある。原爆のことに限定して考えると、観るべき対象として捉えていいと思う。

歴史解釈のことも含めていろいろな見方ができるという点こそ議論をしなければならないポイントだと思う。はだしのゲンを重要なコンテンツとして継いでいく必要があるという映画製作者の強い思いがある一方で、ドキュメンタリーには真実性が多分に含まれるというバイアスに繋がらないよう、多様な視点がしっかり担保されるような見せ方をしていくことが重要であると感じた。

はだしのゲンの後半部分については、戦後の原子力発電に対する戦いの様子が描かれており、それがあつた種のイデオロギーやバイアスであることもあり得るため、その点も含めてはだしのゲンをどう捉えるかという議論のポイントになる可能性があるという点をしっかり理解した上でこの映画を観る必要があると感じた。

(委員)

私は小学校の頃の平和学習を通して、はだしのゲンはとても怖い漫画であるという印象を持っていた。

私の祖母は実際に原爆を体験しており、地獄のような景色だったと言っていた。子供や孫には戦争を経験させたくないということをよく言っていたため、私の世代は戦争自

体に触れる機会は少なかった世代なのかなと思う。

はだしのゲンが小学校の平和教材から削除されたことについて、削除された理由が歴史解釈の違いのみというのは勿体ないと思う。子供達にも戦争当時の様子を伝えていくことは重要ではないかと思う。

はだしのゲンが小学校の平和教材から削除された理由を知らない子供達は多くいると思う。決して、はだしのゲンの内容に嘘が含まれているから削除されたわけではなく、あくまでも歴史解釈の違いという点のみであることを伝えていく必要性は大いにあると思う。

(委員)

今日初めてこの映画を観て、想定していたよりもいろいろな解釈の余地を残して製作されていると感じた。

歴史解釈の問題はあるだろうが、映画視聴の場を提供する立場としては、製作者が訴えていることが正しいものかどうかという議論の前に、いろいろな見方があるということを示し、それを踏まえて考えてもらうということが非常に重要であり、今後はよりそういった場を提供していかなければならないと感じた。

(委員)

映画の最初から最後まで衝撃を受けたというのが率直な感想である。ドキュメンタリーで製作されており、戦争・平和について視聴者自身で考えさせるような内容になっていると感じた。

漫画自体が衝撃的な内容であり、子供達にとっては怖いと感じる描写が多いとも感じるが、戦後 80 年の節目である今年、過去に起きた事実を子供達含め多くの世代に伝えていくことは重要であると思う。また、日本が加害国の一面もあるという事実もしっかり認識し考えていく必要があると思った。

映画的にも、現在の広島の様子と照らし合わせながら製作されている点や、音楽の組み合わせ方も素晴らしいと感じた。

(委員)

歴史解釈の違いにより、はだしのゲンが教育現場で扱われなくなったということについてはやむを得ないことであると考える一方、良い作品であることには間違いなく、戦争だけではなく、家族の愛やその他道德に関する内容も含まれているため、一つの漫画として、学校の図書室から撤去されたということについては納得がいかないとも感じる。

現在、学校の登校日や授業時間の減少により、戦争について考える時間が以前と比較し減ってきているため、この映画を観てもらい、家庭で考えてもらう時間を作ることは重要であると思う。

子供達はとても純粋であり、確かにはだしのゲンは怖い描写が多く含まれているとは思いますが、映画にも出てきた語り部の方のように一生懸命伝えてくれる人がいると、子供達も一生懸命聞こうという姿勢になるため、このような時間を積極的に確保していただけると良いと思う。

(会長)

この映画はバランスよく構成されている作品である。これまでの活動や最新の情勢、多様性などにも触れられており、考えるための素材はかなり与えられている。対立する意見や相手の主張する意見を聞き、何が論点・対立点なのかを視聴者に考えさせるという要素が強く出ている映画だと感じた。

最近、平和教育を受けた子供達に自分で考えた意見ではないような答えを返されることが多い。はだしのゲンについていろいろな見方があるということ踏まえた上で、まずは自分の考えを持ってもらうことが重要である。自分の考えを持ってもらえない限り

は意見を交換する機会も無くなり、誰かが言った意見を無批判に受け取って、正しいものであると思い込んでしまう可能性も出てきてしまう。この映画はそこに歯止めをかけるという意味で製作されたのかなと感じた。生命あるものとしての価値を視聴者自身で創造しながら感じ取ってほしいというメッセージが含まれている映画である。

推奨するにあたっては、基準の1番の人間としての愛情を豊かに育てるもの、2番の社会生活における良識、責任感及び倫理観念の養成に役立つもの、3番の知識又は教養を高めるもの、5番の観察力、思考力又は判断力を養うものでよいか。

(各委員)

異議なし。

(会長)

推奨理由について、何か意見はあるか。

(委員)

この映画を観ることにより、命の大切さや平和への思いについて今一度考えてもらうきっかけに繋がると思う。映画館での上映以外にも、学校で扱ってもらい、みんなでこの映画を観てもらい、戦争について考えてもらえると良いなと感じた。

(委員)

この映画を子供達にそのまま観てもらっても、なかなか理解してもらうことが難しい面があると思う。この映画の価値を高めていくために、以前から実施している平和教育との連動性や、親子で話し合う機会の提供など、この映画をベースに戦争について考えるきっかけを設けるなどの工夫があると良いなと感じた。

(委員)

この映画を初めて観ると、感情的な部分がまず先に出てくるのではないかなと思うが、そもそもなぜ戦争が起こったのかというところをまずは大人がしっかりと考える必要があり、根本から考えることが戦争を抑止することに繋がると思う。

歴史解釈の違いについては、本来であれば親や学校の先生が多角的な視点を持ち戦争についての理解を深めた上で、子供達と一緒に議論をするということが必要であると感じる。

(委員)

子供達に映画館に来てもらうためには、まずは保護者に興味を持ってもらうことが重要であると思う。保護者に子供達も一緒に連れて来てもらえると、映画を上映する意義が出てくると感じる。

(会長)

推奨の理由としては、私に一任していただくということでよいか。

(各委員)

異議なし。

(会長)

その他全体を通じて何か意見はあるか。

(各委員)

意見なし。

(会長)

では、本日の議事は終了する。

(3) 閉会

7 資料一覧

- 資 料 1 青少年に有益な映画等の推奨について（県知事諮問）
映画「はだしのゲンはまだ怒っている」
- 資 料 2 広島県青少年健全育成条例（抜粋：映画等推奨関係部分）
広島県青少年健全育成条例に基づく有益映画等推奨要領
広島県青少年健全育成条例による推奨及び指定に関する基準
（抜粋：優良映画等推奨関係部分）
- 参考資料1 委員の審議参加に関する申し合わせ事項